

釧路南ロータリークラブ会報

第34回 例会報告 2009.3.13 通算1293回

・点 鐘

工藤ゆかり幹事

・幹 事 報 告

・ロ - タ リ - ソング

「我等の生業」



ソングリーダー 工藤 ゆかり会員



- * 厚岸RCより会報を拝受しております。
- * 根室RCより3月プログラムと会報を拝受しております。
- * 3月6日愛の献血ご協力ありがとうございました。
- * 会長が昨日タイに出発しました、帰国は3月19日の予定です。
- * 3月19日(木曜日)は第7分区企画のアースの上映です。また、当日お手伝いとして南RCから工藤・木内会員の2名が皆様より一足先に行き準備・会場受付など手伝えることになっております。

・誕 生 祝

清水 哲会員 S6.3.13(78歳)



・結 婚 祝

船戸 利二会員 S33.3.16(51年目)



・委員会報告

親睦委員会

・本日のニコニコ献金

清水 哲会員 誕生祝として
船戸 利二会員 結婚祝として

出席委員会

会員26名 12名出席 46%

・2009年～2010年度役員

【役員】会長 工藤ゆかり
 会長エレクト 木内 治彦
 副会長 長江 勉
 幹事 菅井 紀之
 副幹事 山本 美穂
 副幹事 長井 一広
 副幹事 長倉巨樹彦
 会計 長江 勉
 S A A 北上 俊一
 副 S A A 小野 一明
 【理事】理事 福井 克美
 クラブ奉仕 長倉巨樹彦
 職業奉仕 木内 治彦
 社会奉仕 花田 善廣
 国際奉仕 佐野 実

【各委員会】

四大奉仕委員会
 クラブ奉仕委員会 委員長 長倉巨樹彦
 副委員長 佐藤 玄史
 出席委員会 委員長 清水 哲
 副委員長 渋谷 諭
 クラブ会報委員会 委員長 長井 一広
 副委員長 福井 克美
 委員 { 清水哲 花田善廣 原田眞則
 長江勉 高橋康成 山本美穂
 親睦活動委員会 委員長 山本 美穂
 副委員長 原田 眞則
 委員 { 清水哲 花田善廣 長井一広
 長江勉 高橋康成 福井克美
 プログラム委員会 委員長 北上 俊一
 副委員長 宝力 力
 メディア委員会 委員長 福井 克美
 副委員長 北村 甲三
 職業分類会員選考委員会 委員長 森江 洋之
 副委員長 太田 一男
 会員増強委員会 委員長 長井 一広
 副委員長 船戸 勲二
 ロータリー情報委員会 委員長 花田 善廣
 副委員長 佐野 実
 委員 北上 俊一
 四大奉仕委員会
 職業奉仕委員会 委員長 木内 治彦

副委員長 和田 優
 四大奉仕委員会
 社会奉仕委員会 委員長 花田 善廣
 副委員長 長倉巨樹彦
 環境保全委員会 委員長 小野 一明
 副委員長 森 伸一郎
 新世代委員会 委員長 佐野 実
 副委員長 山本 美穂
 四大奉仕委員会
 国際奉仕委員会 委員長 佐野 実
 副委員長 伊東 良孝
 ロータリー財団委員会 委員長 安藤 整治
 副委員長 花田 善廣
 米山記念奨学会委員会 委員長 原田 眞則
 副委員長 高橋 康成

・本日のプログラム

「 会員ミニ卓話 」

担当 新世代委員会

・清水 哲会員



昨年のNHKの大河ドラマの番組の篤姫で江戸城の大奥の事が垣間見る事が出来ましたが、大奥が語られる時、女性同士の権力争いの場面が強調され、大奥がいかなるものか理解されていないようです。確かに大奥の実態というのは、当時においてさえ一般に知らされておらず、現在に伝わっているのもほんの一部にすぎないと思います。それというのも大奥奉公に上る際には内情を漏らさぬように誓詞血判していたし、職制が複雑多岐にわたる為に、一人の女中が大奥全体を知る事は不可能に近かったと思われまます。事実明治維新後に旧女中から聞き取りした結果でも細部につ

いては統一性を欠いているという事です。以上のような制約がありますがここで私の知る処、あるいは文献で調べたところをまとめてみたいと思います。大奥のお話に入るわけですがだいぶ長くなるのでまた途中切れになる恐れがあります。是非お話ししたい話を先にいたします。「君が代」は国歌となっただけでなく、大奥との意外な関係がありますのでご紹介いたします。政治的な話ではありませんので、蕙蓄話程度で聞いて下さい。明治2年に明治政府が英国から貴賓を迎える事になった時の話。明治政府に雇われていた軍楽隊教師「フェントン」が接待役の薩摩藩士「原田宗助」に尋ねました。「貴賓を迎える場合に両国の国歌を演奏をする必要があるが、日本の国歌とはいかなるものか？」もちろん日本には国歌の定めもなかったため原田宗助は答えようもなく、国家の一大事と判断し、急ぎ軍務官幹部である薩摩の「川村純義」に伺いをたてにいった。折悪く会議中であった、後の海軍大臣である川村は会議から抜け出て怒気を含みながら次のように答えたといいます。「おはん方を接伴掛としたのは、今度来朝あれせられる英国貴賓饗応において、万事不都合なかんごつ取計らってもらうためじゃ。それを何ぞや、たかが、歌くらいで一々問合せに来る必要があるか。何ごつによらず掛員が相談の上、饗応については総て手落ち無くよかよう取計ってよか」くだらんことを一々聞くなと言わんばかりの態度に青ざめた原田は、立ち帰り同役である乙骨太郎乙（おつこつたろういつ）に相談した。乙骨は旧幕臣でふと大奥で行われていた「おさざれ石」の儀式を思い出し歌詞を口ずさんでみた。それこそが現代の「君が代」の歌詞であります。それを聞いた原田は驚いた。それは「薩摩の琵琶歌」にもある歌詞だったからである。早速、原田はフェントンの前で節を付けて唄ってみせ、それを国歌として演奏することとした。もっとも、初期の「君が代」は即興のせいで評判が悪かったため、明治13年に、海軍雇いのドイツ教師エッケルトによって雅楽の音律を取り入れるなど曲が整えられて現在の「君が代」となったわけであります。「君が代」の発案の素となった大奥の「おさざれ石」の儀式とは次のようなものであります。「おさざれ石」は御台所が将軍に年賀の挨拶をする前に行われるお清めの儀式で、正月三日の間に行われました。御台所は毎朝七つ時（午前4時）起床して、お化粧、着替えを済ませた後、廊下の中央に置かれた石の三個入った盥をはさんで、

御台所を大奥中老が向い合って着座。中老が「君が代は千代に八千代にさざれた石の」と上の句を唱え、御台所が直ちに「いわおとなりて、こけのむすまで」とつなぐと中老が上から水を注いで御台所の手を清め、小姓が手拭を捧げることで儀式が終了いたします。この話は原田の後輩である海軍中将、澤 鑑之丞が「海軍70年史談」という本に記されており、現在でも古書店などで入手可能であり、探せば図書館でも見ることが出来ると思います。なお「君が代」の歌詞が大奥の儀式や薩摩の琵琶歌に使用されていたという一種の奇妙な符合は、この歌詞が古くは古今和歌集905年や、和漢朗詠集1013年頃に読み人知らずとして記されており、室町時代の謡曲「老松」に取り入れられ、更に江戸時代になると神楽歌、里謡、琴歌、地唄、長唄、琵琶歌、白引歌、船歌などにも祝歌として広く浸透していたことによると思われる。江戸城は本丸、二の丸、三の丸、西丸からなっており、本丸には本丸御殿、天守閣がありました。また本丸御殿には、表向、中奥、大奥に三分することが出来、更に大奥の内部は御殿向、長局向、広敷向という三つの区域がありました。もちろん時代によっては二の丸や西丸にも大奥がありました。ここでは本丸大奥について取り上げておきます。大奥は、将軍の御台所（正室）や側室や生母、彼女らに仕える女中の生活の場であります。御殿には、将軍の大奥での寝所や御台所の居室や、奥女中の詰所があり長局には奥女中の住居があります。狭義に大奥という場合には、この御殿と長局のみをいいます。大奥と言う名称は、表向に対して、一番奥と言う事ではありますが、これが固有名詞化されたものと考えられます。大名家等では、「奥向」あるいは「奥御殿」などと呼称していたようです。大奥は、その性格上、男子の出入りに制限があるのは当然であります。しかし一般に牡猫一匹入れないといわれるが、それは誇張しすぎです。まず大奥には広敷といわれる一角があり、男性職員が多数詰めております。例えば、御台所の食事などは基本的には、この広敷の台所役人（男性）によって作られるのであります。もちろん、この広敷と大奥御殿は自由に出入りが出来るわけではなく、御広敷御錠口によってのみしか出入りができず、厳重に管理されております。とはいえ、13代将軍の御台所に愛猫がおり、姿を消すたびに広敷役員が探しまくったという

話があるくらいですから、御用があれば割と出入りしていたのかも知れません。狭義の意味での大奥（御殿と長局）の出入りについてであります。享保年間の大奥法度によれば「九才までの子、兄弟、甥、孫」の呼び寄せが可能であり事情によっては一泊のみ認められています。また、御殿内には老中などの表役人が御年寄と対談する「御広座敷」という部屋も用意されていましたし、急病人が出た場合は、当然ながら医師が入ったこともあったと言います。大奥では旧暦の正月節分に、広敷の御留守居役が年男役を務め、女中に胴上げされたともいい、また正月七日には御鏡餅曳きといって餅を舟そりに乗せて御広敷の下男が変装して囃しながら曳き歩く行事もあったと言います。このように見ますと、私たちが思っているより男子禁制は穏やかだったとも言えます。大奥に生活する奥女中には、どのような職制があったのか気になります。大きく分類すると「お目見え以上」、「お目見え以下」、「部屋方」に分類されます。お目見え以上は將軍、御台所に謁見できる身分の女中であり、お目見え以下は、謁見できない身分であります。ただし、お目見え以下であってもお目見え以上に出世することが出来る可能性があることは、表役人と変わりありません。部屋方というのは、お目見え以上の女中に私的に雇われている女中であり正式な女官ではない。従って活動範囲は長局に限られていました。以下で、もう少し詳しく職制についてみると、大奥の女中というのはすべて、將軍付女中ではなく、御台所付女中や、世子付女中、將軍生母付女中などがおり、基本的には職制は同じであるが將軍付にはある職制が御台所付にはないという場合や逆の場合などがあります。上臈御年寄、奥女中の最高位で多くは、御台所の輿入れに随行してきた公家の娘。「飛鳥井」「小路」などと呼ばれる。通常は、將軍や御台所に近侍するが実権を待たせないようにされていたという。御年寄、奥女中第一の権力者で、老女・局（つぼね）などともいう。御用掛・月番などがあり、月番の時は毎朝四ツ時（午前10時）から夕七ツ時（午後4時）まで「千鳥之間」の煙草盆の前に座り、表使や右筆を呼び御用を申し付けた。大奥方の論理からすれば、表の老中にも匹敵すると認識されており、事実、諸大名に將軍の意を伝える上使にも立ったといわれている。俗に御年寄は「10万石の格式」といわれた。平素は中奥の御側御用取次と内談もしていたという。大奥を掌握している御年寄は、將軍

にとっても煙たい存在であったらしく、大奥泊まりよりは中奥泊まりの方が安心できた？のかもしれない。御客会釈、將軍が大奥にお成りの時のおとりなし、ご家門等の女使の接待を行う役。御年寄等を引退したあとの隠居役であったらしく年老いた女中が役に就いていたと考えられています。またこの役は將軍付の女中のみの役職であります。中年寄、御年寄の指図で仕事をし、代理役も勤める。毎朝、献立表を取り寄せチェックし、配膳の指図、出来上がれば毒見もしたそうです。この役は、御台所付の女中のみの役職であります。御中臈、將軍、御台所の身边の一切の世話を行う。多くは器量の良い若い女中であったといわれる。通常、將軍の「お手つき」というのは將軍付きの御中臈から出るが、御台所付女中から將軍の目に止まった場合は、御台所から將軍に献上という形をとったという。お手付きとなると「内証の方」と呼ばれ、子が出来て、初めて独立した部屋がもらえる。出来た子が女子であれば「御腹さま」、男子であれば「お部屋さま」と呼ばれた。御中臈より下位の女中が將軍に見初められた時は、御中臈に昇進した。御小姓、御台所や姫君の小間使いをする役で、14～15歳位の少女が就く事が多かったようである。御錠口、大奥と外との接点は4箇所ある。一つは、中奥と大奥の間の「上の御鈴口」であり、將軍が大奥に出入りする錠口である。ここに詰めて、中奥の男役人と連絡しあいながら將軍の用を足すのが御錠口の役目である。ちなみに二つ目の接点は「下の御錠口」で非常口として、普段は使用されていなかった。三つ目が御広敷とをつなぐ「御広敷御錠口」で將軍以外の男子やお目見え以上の女中が出入りする時はここを通った。四つ目が「七つ口」で御広敷と長局の間にあり、お目見え以下や部屋方はここを通った。この出入り口は午後4時（七つ）に閉まったことからこの名が付いた。

・次回のプログラム

3月20日（金）休会（春分の日）

3月27日（金）

「IMを終えて」

会場 釧路ロイヤルイン 11F

担当：会長・幹事

・点 鐘 工藤ゆかり幹事

今週の会報担当：佐藤玄史会員